



AA日本ニューズレター

〒100-91
東京都中央郵便局
私書箱 916

AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス TEL 03-3590-5377
〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 4F FAX 03-3590-5419

No.75

第3回アジア・オセアニア・サービスミーティング

—アジアのまだ苦しんでいる3億人のアルコールにAAのメッセージを一私たちに残された課題—

【AOSM開催】

オーストラリアのシドニーで開催された第3回AOSMは、3月28日の“お互いを知るためのミーティング”に始まり、30日の夕方まで、アジアや南太平洋諸島の国々で、回復の方法を知らずにまだ苦しんでいるアルコールにAAのメッセージを運ぶべく、各国の経験や力が分かち合われた。今回の参加国はアジアからは日本、韓国、台湾、ホンコン、インドネシア。オセアニアからはオーストラリアとニュージーランドの合計7カ国で、ゼネラルサービスオフィスがあり、全体サービス機構が整った国々だけではなく、AAが生まれて歴史の浅い国々の参加もあり、大変実りの多い会議となった。さらにアドバイザーとしてニューヨークGSOからは国際担当のリチャードと前所長ジョージが、またオブザーバーとしてAOSM元議長やオーストラリアの常任理事が多数加わった（オブザーバーには発言権がない）その詳細な内容についてはWSM評議員の湯浅さんと山宮さんから皆様への直接の報告や最終報告書にゆだねることにし、本紙ではAOSM発足時から今回の開催までAOSMに関わってきた事務局の立場で皆様に報告させていただきたい。

【世界の目は東欧からアジアへ】

1990年、私はミュンヘンで開催されたワールドサービスミーティングにWSM評議員として参加した。当時ベルリンの壁の崩壊という歴史的な出来事にはずみをつけ、まだ集会の自由も書物を輸入する自由も制限されている東欧諸国に、西ヨーロッパ各国のメンバーがAAのメッセージを運ぶために、さまざまなスパイ活動もどきの方法をとっているという報告に胸をわくわくさせて耳を傾けたものだった。それまでアメリカ・カナダだけが負担していたAA出版物の各国語への翻訳出版費用を、私たちの国々も分担していこうという国際出版基金が提案されたのもこの時のWSMだった。当時のAAの課題

はこれら東欧諸国にAAのメッセージを運ぶことであり、実際に各国の協力のもと、メッセージは運ばれ、各地でAAが始まった。それからたった10年もしないうちに、AAはこれらの国々にしっかりと根をおろし、爆発的な発展を見せた。各国で協力すれば、メッセージは運ばれ、そこで育つのだということ、だれもが実感できた。だから今、AAにとっての新たな課題であるアジアや南太平洋の島々、そしてアフリカの国々にメッセージを運ぶことについて、たとえ貧困や、文化的な妨げ、数え切れないほどの言語の壁があったとしても、AAの歴史を振り返ればかならず実現できるものだという強い信念をもつことができるのだ。

【各国のAA】

オーストラリアには多数の外国人が住んでいる。その中にはアルコールに苦しみながらも、言葉の壁のために回復の方法も知らない人が多い。そんな人達にAAのメッセージを運ぼうと、オーストラリア常任理事会はAAの案内や出版物を各国語に翻訳している。日本語への翻訳についてはもちろん私もお手伝いさせていただいている。

ニュージーランドも南太平洋の島々のすべてにWSM評議員が手紙を書いて、AOSMのことや、国際出版基金のことを伝え、AAが存在しない国には、インターネットを使って保健や健康に関わる公的機関を探しだして、そちらと連絡をとっている。

ホンコンは、前回のAOSMのあと、マカオに何度も足を運び、ついにマカオでもAAのミーティングが始まった。

台湾のAAの歴史は20年以上と長いのだが、これは英語ミーティングの話であり、台湾人のアルコールにメッセージが届くようになったのはこの5、6年のことだという。現在は台湾人のミーティングが二つの都市で開かれている。

韓国はソウルを中心にサービス機構が築かれつつ

ある。評議会はまだないが、各地域からの代表者が集まる全国インターグループミーティングが3ヶ月ごとに開催されている。

AOSMで何度も繰り返されたことは、1メンバー、1グループ、1カ国ではできないことでも、お互いに情報を交換し、協力し合えば、必ず実を結ぶということだ。わが国でも外国からの労働者が増加するにつれ、異国でアルコールに苦しむアルコールの数も増加している。ある医療関係者からその人達にAAのメッセージが運ばれないものだろうかという連絡を受けた。そこで、eメールなどを利用して、その人の母国のAAメンバーからメッセージが運ばれるようお互いに協力していくことになった。

【サービスに捧げる人たち】

話は大きく変わるが、AOSMやWSMで忘れてならないのは、日本のAAのサービスのために、いつも全力投球してくれるカリフォルニアのダグが、今回も日本語通訳としてわが国のWSM評議員山宮さんのために航空運賃も自腹でボランティアで参加してくれたことだ。彼は通訳のプロではないのだが、両方の国の言葉がわかるものには、彼がどれほど説得力のあるロジックな英語の表現を駆使して、日本語から英語に見事に通訳していることが判るはずだ。この会議の期間中ずっと山宮さんのそばで、みんなの話をどんどん同時通訳する姿に、ふさわしい感謝の言葉も見つけれず、ただ頭を下げるだけの私に、彼はいつもビッグフックの146ページの“われわれのほんとうの目的は、神と周囲の人びとへのできる限りの奉仕に自分を捧げることである”という部分を引用し、山宮さんが言葉のハンデをまったく感じないように手助けすることが、神から自分に与えられた役割であり、そのようなサービスができることは自分の喜びなのだからと、さらっと言っている。実はそのために事前にどれだけの準備をし、どれだけの資料に目を通し、当日どれだけたいへんな思いをしているかなど、ぜんぜんおくびにも出さずに。

事務局の仕事のうち、公式な英語の書簡の原稿をいつも準備してくれ、昨年夏に私が健康を損なったときには、ただちに代わって仕事を進めてくれたのは、オーストラリア常任理事会の常任理事のアンだった。

30項目にも及ぶ議事項目について、自国で話し合い、すべての項目についてレポートにまとめてきたニュージーランド評議員サイモン。その熱心さに心打たれる私に、自分は評議員として自分の国のAAから委ねられ、こんなにたくさんの費用をかけて



送られてきているのだから、そうするのは自分の責任として当然のことだと、にっこり答えたサイモン。休憩時間に、次回のチェアパーソンを引受けてもらえないかしらと話を持っていったら、そのような役割を任せてもらえるのは、何よりも名誉なことであり、責任を持って引受けていきたいという答えに、またまた圧倒された。サイモンはAOSM開催以外のときにも、各評議員に意見を求めることが生じたときには、いつもだれよりも真っ先に意見を寄せてくれた人だ。

【AOSM事務局の交替】

さて、議事はつづがなく進行し、次回のチェアパーソンも決まり、事務局に話しが及んだとき、会議は中断した。AOSMの成功は事務局が最初から定まっていた、年間を通じてよどみなく仕事が進んできたことによるものだと、NYのGSOの前所長は高く評価してくれた。たとえばヨーロッパサービスミーティング(ESM)も、事務局がイギリスのGSOに置かれるようになってから、ESMはスムーズに運ばれるようになった。アメリカ諸国サービスミーティングは事務局が持ちまわりのため、熱心な国が行なうときにはうまくいくが、そうでないこともあり、また、継続的に経験が受け継がれないため、あまり成功していないという。だから当然日本が今後もしばらくAOSM事務局業務を行なってくれるものとだれもが信じて疑っていなかった。私自身、輪番制の原理にのっとるなら、これほど名誉ある、やりがいのある役割を独り占めにすることに多少なりとも後ろめたさを感じていたのだが、現在はまだ輪番制の原理を実践するよりも、輪番制の原理にもっていくことができるよう、その基盤を築き上げている時期なのだから、そんなことを考える必要はないとあっさり言われた。しかし、日本のAAの財政事情は、事務局業務を引き受けることはもうできないところまできているのだ。ましてAOSM事務局業務を行なう人件費を支払う余裕もないのが現状である。そのことが日本の評議員から全員に伝えられ、なんとか解決策を求めて話し合いを進めるうちに、出席評議員のなかに初めて、これまでAOSM開催のために財政的に日本にどれだけ依存していたのかという現実が認識されていった。開催国は毎回持ち

まわりで開催費用を負担する。けれども日本は年間を通して事務局経費を負担し、さらに事務局である私の航空運賃と滞在費用を評議員の分とは別に余分に負担していたのだ。そのことがここで初めてみんなに認識された。そして話が暗礁に乗り上げそうになったとき、事務局を手伝ってくれていたオーストラリアのアンが、常任理事会の承認を受けたら、事務局を引受けると申し出てくれ、一件落着となった。アンは常任理事国際委員会担当常任理事としてその多彩な能力を発揮している物静かで穏やかな女性で、ソブラエティは今年40年目になるところだという。

今後の経費についてはA O S M基金を設定し、各国からこの基金に献金してもらい、事務局経費も渡航費も、またチェアパーソンの渡航費もここから賄われるような方向に向かうことになった。そして日本の常任理事会に対し、これまでの援助に対する感謝状が送られることになった。

オーストラリアは第一回目には参加しなかった。国内で反対されたからだった。オーストラリアはアメリカ/カナダの次にA Aが誕生した歴史の深い国だ。常任理事はみな30年、40年というソブラエティの人達だ。そのオーストラリアが今まで事務局を日本に任せっきりだったという現実に向け、これからは積極的にA O S Mに関わるという決断をした。そしてオーストラリアの常任理事会から日本のA O S M事務局に対し、300ドルの献金が送ら

れた。日本のA Aが築き上げた地盤の上に、A O S Mが大きく成長してゆくものと信じている。

【次のA O S M】

なお、2年後のA O S M開催地は韓国になった。日本が常任理事会の決定として韓国を推薦したが、とてもユニークなキャラクターの韓国のチョーさんは、A Aのサービスに対してノーとは言えないからと、快く引受けってくれた。なお前述のように、チェアパーソンはニュージーランドのサイモン、事務局はオーストラリアのアンになったことをお伝えし、報告を終えたいのだが、その前にひとつ付け加えたいことがある。

【個人の努力の評価またはアノニミティ】

この報告の中には個人名があちこちに見られ、日本のメンバーの方々には個人名を出しすぎと思う方も多いことだろう。このような会議で海外に行き、日本のA Aとの違いに驚嘆するのは、個人評価の部分である。ハイヤーパワーに与えられた使命を全力を尽くして果たしているメンバーに対し、周囲の人達は名前を挙げて心から評価し、賞賛の言葉をおくる。それだけでなく自己評価の低い私は、このような賞賛の言葉を受け、暖かく包み込まれたとき、どれだけ心安まる思いをしたことだろう。私もA Aのサービスのために惜しみなく時間や力を提供している人達に、心から賞賛の言葉を送りたい。

A O S M事務局 山本

A A 出版物の著作権



ビル・Wと草創期のメンバーたちは1938年から39年にかけて、ビッグブックの発刊に向け、けんけんごうごうたる議論を重ねた。アルコールリズムという悲惨な病気の解決の方法を、遠く離れた地方の人達や、遠い将来にわたって伝えようとしているのだ。その内容は本当にフェローシップ全体の経験がゆがめられることなく、正確に伝えられているだろうか。その一字一句の表現をめくり、何ヶ月も何ヶ月も論争が繰り広げられた。そしてやっとメンバー全員の合意にこぎつけ、ついにビッグ・ブックが出版された。でもまだ越えなければならない壁があった。この本とそこに書かれたメッセージをいった

い誰が所有すべきなのか。だれであれ、いったんそれを所有したら、その規制を行なうのは当然のことだろう。ビルも言っているように、“A Aのような集まりは自分たちの出版物は自分達で発行し、自分達で規制すべき”なのだ。もしどこかの出版社がその原稿を買って出版したら、その本のすべての権利はその出版社が持つことになる。草創期のメンバーたちは自分達でビッグブックを発行するため、なりふり構わずお金を集め、自分たちで責任をもってA Aのメッセージを保護した。それは今日にも及び、A Aの出版物はすべてA Aのフェローシップ全体で所有し、規制している。このようにして初めてわたしたちはA Aのメッセージを完全な形で保ち、曲解されずに次世代へと受け継ぐことができるのだ。

でももしどこかで著作権の侵害があったら、A Aメンバーが法廷に出向くだろうか。A A本来の目的とはかけ離れた次元でメンバーは論争に巻き込まれ

ることになるのだろうか。そこで、ビルと草創期のメンバーたちはビッグ・ブックのすべての権利を常任理事会に託した。その権利を守る責任も併せて。このようにして、法的なことについては常任理事会が責任を担い、AAという集合体はAAの第一の目的だけに目を向けることができるようになった。

それは現在でも受け継がれている。AAは著作権など所有すべきではないし、著作権を侵害した人を罰すべきではないという意見がある。それは正しい。AAという集まりは著作権を所有していないし、したがって法廷に出て行くこともない。AAという集まりに代わって常任理事会が、霊的なAAの集まりとは分離して、AAのさまざまなことがらを管理運営し、責任を担い、必要とあらば法廷に出向く。

AAの出版物の著作権はアメリカ/カナダのAAによって設立された法的機関であるAAワールドサービス社(AAWS)にある。日本語に翻訳されたAA出版物の著作権もAAWSにある。翻訳出版物の著作権をわが国で守る責任はJSOを通して日本の常任理事会に託されている。

世界中のAAメンバーが自由にAA出版物を利用できるように、AAWSは各国のゼネラルサービスオフィスに対して翻訳出版の認可を与えている。日本の場合、各AA著作権出版物の翻訳発行の許可書は常任理事会議長が著名をしている。AA出版物の翻

訳発行にあたっては、まず著作権者から書面による認可を受け、初めて印刷物として発行できるようになっている。そしてその認可は各国のゼネラルサービスオフィス一箇所だけに与えられており、それ以外のところには与えられていない。

著作権の侵害があった場合、わが国での著作権保護を託された日本のAA常任理事会が、日本のAAメンバーに代わり、そしてAAWSに代わり、法的措置をとる権利を与えられている。

私たちにあって何よりも大切なAAの出版物。それは草創期のメンバーたちから私たちに受け継がれた恩恵であり、遺産である。それを次の世代のアルコホリックに受け継いでいく責任が私たちにはある。アルコホリズムに苦しんだ経験、奇跡的な解決の方法を見出した経験、それらを印刷物の形で将来のAAメンバーたちのために私たちは託されて預かっているのだ。AAメンバーの一人一人がそのことを認識し、守っていく責任を担っているといえる。

なお、AA出版物の著作権の問題については世界のAAが真剣に受けとめており、この文章も、オーストラリアで作成したメンバーに対するお知らせを参考に作成したものであることを、ご了承いただきたい。

出版担当常任理事 金田

GSO のためにあなたに出来ることは？

[Your A.A. General Service Office] というパンフレットがワールドサービス社から無償で各グループに届けられています。オフィスの受付の写真などもプリントされ、その内容はオフィスの始まりから現在までの機能や役割を簡潔に紹介しています。そして、最後に以下の文章が載っています。

1. あなたの経験をGSOにお知らせください。
グループやメンバーの皆様が現在立ち向かい、手応えを得ていることについてお知らせください。
AAのメッセージを運んでいる各地のメンバーにとって大変役立つはずですよ。
2. GSOに必ず連絡を入れてください。
住所録や記録ファイルに掲載されているグループ、メンバー、ミーティング、委員会、セントラルオフィス等の情報が最新のものであることを確認出来るのは、あなたしかいないのですから。
3. 伝統7をいつも心にとめておいてください。
AAはすべて、つまり、あなたのグループもGSOも、自立することに責任をもって関わっていま

す。皆様におなじみの献金プランは、パースディプラン... AAパースディにちなんで1年につき1ドルの献金、毎月もしくは4半期ごとのグループ献金(一つの例として; 6・3・1のプランで、6割をセントラルオフィス、3割をGSO、1割を地区、地域に)といった方法があります。最も望まれることは、献金額の多少ではなく、全てのグループに関わっていただくことです。

4. 新しい人にもお伝えください。あなたのGSOのことを...
5. GSOを是非お訪ねください。

暖かい歓迎を受けるでしょう。スタッフメンバー、各担当責任者、そしてグレイプバインのスタッフが紹介され、オフィス全てが案内されます。

スタッフが出かけたり、手紙での連絡でGSOとあなたの町との距離はとて近づきます。けれどもなにより嬉しいのは、皆様のGSOであなたとお会いできることなのです。